

令和 8 年度 10月号
学校だより



横浜市立今宿小学校



<今宿小学校学校教育目標>

☆☆育てたい「いまじゅくの子」☆☆

- い ○いきいきとした心と体をつくる子(体)
- ま ○学びをいかそうとする子(知)
- じ ○自分とみんなを大切にする子(徳)
- ゆ ○ゆめをもち人の役に立とうとする子(公)
- く ○くらしをよりよくしようとし世界に目を向ける子(開)



支え

校長 藤巻 孝之

5組の子どもたちが多目的室で新校舎での給食当番の手順を確認しています。1年生が教室前のベンチで先生と談笑しながら何やら作戦会議をしています。2年生が集会室でダイナミックなダンボール造形遊びをしています。3年生が多目的室でおっかなびっくりしながら図工の釘打ちをしています。4年生が体育館前の広場でふれスポに向けた練習をスタートしています。5年生が展示ホールで御殿場宿泊体験学習の準備を進めています。6年生が昇降口前ホールに集合して旧校舎開放前の大掃除に向かおうとしています。各学年の活動が他学年の子どもたちにも見えるのが新校舎の強みです。口の字の校舎がペア学年やふれあい班の活動のみならず、日々の異学年交流を可能にしています。子どもたちも職員も新校舎での活動の広がり、深まりに期待感を膨らませています。豊かな発想力で子どもたち、そして新校舎が育っていく毎日です。

さて、9月5日(土)に開催した旧校舎開放には1000名近い方々が来校されました。最も多かったのが卒業生、次いで保護者、地域の方々です。元今小職員の姿も散見されました。ネット社会のメリットが生かされ、すぐる配信や地域へのチラシ配布、学校周辺施設でのポスター掲示から拡散が進み、他都県からも今小に帰ってきた方が大勢いらっしゃいました。至る所で再会を喜ぶ声、しみじみと当時を振り返るつぶやきが聞かれ、中には旧友とともに2回も3回も旧校舎内をめぐる方もいらっしゃいました。

この旧校舎開放が大成功した背景には6年生の力、支えがあったことを多くの方に知っていただきたいと思います。様々な校舎の引っ越しイベントが子どもたち主体で実施されましたが、それをリードしてきたのは6年生です。その活動の一環として行われたのが家庭科の学習に端を発した6年生による旧校舎の清掃活動です。8月17日にスタートした校舎引っ越しは順調に進みましたが、すべての荷物を運び出されたあとの旧校舎は、まるで廃校のように、それはそれはむなしい姿になっていました。建て替えをしている学校の多くは解体前に校舎を開放するイベント行っています。今小も同様に開放することを、私は着任当時から考えていましたが、他校にならえ、で実施を決めたわけではありません。着任早々、今小が地域や卒業生の皆さんから大変愛されていることを実感したからです。ぜひとも大勢の方々に旧校舎を訪れ、直接お別れをしていただきたかったからです。しかし、変わり果てた旧校舎をこのまま開放できない、この姿を見たら卒業生の皆さんはきっとショックを受けるだろうと、思いは一気に不安へと変わってしまったのです。

そんな時に立ち上がった6年生。6年生はたくさんのホコリやごみとともに不安をも一掃したのです。大げさではなく、子どもたちが通っていた当時よりもきれいになっていたのです。さらに、処分を待つだけの各教室のカーテンを寄せ書きに活用したり、黒板に記された思い出のメッセージを消さずに残しておいたり、心遣いもできる6年生に感動しました。6年生の支えがあったからこそ、9月5日を迎えることができた、ぜひご承知おきください。

まもなく前期が終了します。半年間の成長を振り返ると同時にふれあいスポーツフェスティバルの準備が加速していきます。子どもたちが声を出し、子どもたちの思いが実現できるふれスポになるよう、元気が一番の今小へのご支援を引き続きよろしくお願いいたします。